

■2005年前半(1月～6月)活動報告■

募金贈呈式

6月30日(木) 北方中央公民館

国際ソロプチミスト佐賀西部の皆さまは、毎月の例会で募金をして下さっていました。このたび、6月の役員交代の折に、1年を通じて集まりました募金をユニセフに寄贈して下さいました。ありがとうございました。



ユニセフ授業

6月5日(日) 佐賀市立嘉瀬小学校6年生(47名)



水がめを持ってみよう

- ◆ 6年生の皆さんは、『自分にできるボランティア～世界の子どもたちに目を向けて～』というテーマのもと、ユニセフの活動を通して世界の子どもたちの現状の一端を学び、自分にできるボランティアについて考えました。
- ◆ 佐賀市内小学校の「フリー参観日」でしたので、子どもたちと一緒に学習に参加された保護者の方もいらっしゃいました。
- ◆ ワークショップ【「世界の子どもたちは、今」佐賀バージョン】【「水の惑星・地球」に共に生きる】を行い、最後に【自分でできること】を保護者の方も一緒になって考えました。

◆子どもたちの感想から

☆ 私たちには飲める水もあるし、トイレもあるし、住む家も学校もあるのに、モンゴルやネパールにはそんなものがない子どもたちがたくさんいることを知って助けたいと思いました。今よりもっと物を大切に、ユニセフに協力するために「書き損じはがきを集めること」を嘉瀬町・昭栄校区・佐賀市へと広めていきたいです。

☆ ユニセフYES-NOクイズは、全問正解にはならなかったけど世界の子どもたちのことがいろいろ分かりました。そんな子どもたちをユニセフが助けていることを知り、ぼくもできるだけユニセフの手伝いをしたいなと思います。

☆ ユニセフのみなさんのおかげで募金をしている理由がわかりました。私はみなさんに教えてクイズで知ろう！世界の子どもたち ORSでカンパニー！もらったまほうの水「ORS」を母に教えたら「へえ～！おぼえておくね。」と言ってくれました。私はユニセフのみなさんが帰ってから、むだ使いや食べ残しをしなくなりました。ありがとうございました。



クイズで知ろう！世界の子どもたち



ORSでカンパニー！

事務局訪問

6月3日(金) 佐賀県支部事務局にて

◆総合的学習の時間「ワンダー」で国際理解に興味を持ち、開発途上国について探求活動をしている佐賀大学附属中学校2年生の生徒さんが事務所を訪れました。事務局を訪問、ユニセフについて勉強しました。

◆二人は『手をつなごう！世界の子どもたちと』というテーマを設定し、教科書で見た困難な状況にある難民の子どもたちを助ける方法や自分に今できることはないかなどを見つけ出し実行に移したいと、熱心に質問したり資料を調べたりされました。



募金贈呈式

6月1日(水) みやき町立中原小学校

◆みやき町立中原小学校の皆さんは毎年暮れのハンド・イン・ハンドにも参加してくださっていますが、5・6年生の運営委員の皆さんを中心にして校内ユニセフ募金活動に取り組んでくださいました。

◆5月9日(月)から20日(金)までの2週間、朝と給食の時間に募金活動を行いました。その結果、15,945円の募金が集まりました。みんなで集めたこのお金を世界中で困っている人々を助けるために使ってもらいたいという気持ちで、ユニセフに募金をしてくださいました。

◆放送室スタジオでの募金贈呈式のもようは、校内テレビを通じて全クラスの皆さんに見ていただきました。



募金贈呈式

5月31日(火) 佐賀市立文化会館

◆コープさが生活協同組合 2005年度第15回通常総代会の席上で、佐賀県支部常務理事の太田記代子氏に「東ティモール指定募金」が贈呈されました。

◆コープさが生活協同組合が行っている「ユニセフお年玉募金」と店舗等でご協力いただいた331,817円もの募金を東ティモールの女性向けの識字教室と、識字の重要性や女性の権利についてラジオを通じての啓発活動などのために佐賀県支部を通じて託されました。



イオン「幸せの黄色いレシート」キャンペーンから

5月30日(月) ジャスコ佐賀大和店

- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。
- ◆佐賀県支部でも、ユニセフのBOXを用意していただき、皆様にご支援をお願いしております。おかげさまで、5月30日(月)ジャスコ大和店にて、コピー用紙500枚の包みを20包み寄贈されました。本当に何よりのお品です。事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。



ユニセフパネル展&グッズの頒布

青年の日 第11回チャリティーフェスティバル ～愛を集めよう 愛を届けよう～
5月29日(日) 唐津市松浦河畔公園.国際交流広場



- ◆ボランティア団体クローバー & 青年の日実行委員会の主催のチャリティーフェスティバルは、佐賀県内外のNGO・NPOも多数参加し盛大に行われました。
- ◆このフェスティバルは、毎年、ユニセフ事業への支援と地域社会の福祉協議会への賛助を目的に、市民参加のもと実施されています。今年もアフガニスタン「忘れられた国」にはいけないと、アフガニスタン復興支援のために多くの市民の皆様にご協力を呼びかけました。
- ◆青年の日は立正佼成会の青少年部員が地域社会や国家、世界の平和を願って具体的な菩薩行を実践する日です。



使用済み切手の寄贈式

5月24日(火) 佐賀銀行本店



- ◆佐賀銀行では各支店の窓口に黄色の「思いやりBOX」を置き、書き損じはがきと使用済み切手の回収をお客様に呼びかけておられます。
- ◆寄せられたはがき900枚と切手27キロを三等分し、NPO法人地球市民の会・佐賀ユネスコ協会・日本ユニセフ協会佐賀県支部の三団体に寄贈されました。

ユニセフパネル展&グッズの頒布

5月22日(日) 鹿島ガタリンピック会場

◆雨空の広がる中、第21回 鹿島ガタリンピックが鹿島市七浦海浜スポーツ公園で行われました。開催が危ぶまれるようなお天気でしたが、お昼からは雨も上がり、韓国や中国などからの留学生を含め1200名が参加、詰めかけた25000人の観衆が泥だらけの体当たりの競技に声援を送りました。

◆鹿島東部中学校の生徒さん、ボーイスカウトのみなさん、雨にもかかわらずのご協力ありがとうございました。



ユニセフ チャリティーバザー

5月14日(土) 14:00~15:00 佐賀玉屋新館アーケードにて



◆ユニセフを支援して下さる多くの皆様からお預かりした沢山のバザー品を仕分けしました。

◆お客様がお求めやすい価格で、しかし少しでも多くの募金になる
◆バザー開始1時間前からお客様が集まれ、オープンを今か今かと心待ちされました。カウントダウンしてバザー開始。大盛況でした。



◆バザー品を提供して下さった皆様、仕分け・値付けをはじめ色々な形でお手伝い下さった皆様、そしてお買い上げくださったお客様、心温まるご協力をありがとうございました。

「◆新聞を見て来ました」「ラジオを聴いて来ました」という方も多くおられ、大盛況のうちにバザーを終えることが出来ました。

◆お蔭様で売り上げ総額は231,160円にのぼりました。これらはすべて、スマトラ沖地震・津波に被災した子どもたちの支援に使わせていただきます。

◆たくさんのお客様にお買い上げいただき、色々な形でユニセフバザーに協力して下さった皆様の温かいお気持ちを、スマトラ沖地震・津波で被災した子どもたちのもとへ届けることができました。

ありがとうございました。
ようと矛盾した仕事ですが、日頃から鍛えた主婦の経済感覚をフルに発揮して値段を決めました。



ユニセフグッズの頒布 & バザー

5月3日(火・祝) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田陶器市会場)

- ◆明治29年陶磁器品評会が開かれ、その後この品評会と同時に開催されるようになった蔵ざらえ大売り出しが有田陶器市の始まりです。今年で102回を数え、当日は22万人の人出があり、活況を呈しました。
- ◆そんな中、「スマトラ沖地震・津波で被災した子どもたちのために」と、佐賀大学の先生・留学生・学生の皆さんも手伝ってくださって、賑わう今右衛門古陶磁美術館前で、各地から来られたお客様にバザーや募金などでのご協力を呼びかけました。
- ◆多くのお客様から「子どもたちのために頑張ってください。」と励ましの言葉もいただき、たくさんのご協力をいただきました。



JA佐賀県女性組織協議会 募金贈呈式

3月18日(金) 佐賀県JA会館にて



- ◆JA佐賀女性組織協議会では1979年の国際児童年を契機に毎年募金活動に取り組み、佐賀県内の児童福祉施設とユニセフに募金を贈られています。
- ◆今年も塚原順子会長からユニセフ協会佐賀県支部村岡央麻副会長に「世界の子どもたちのために役立ててください。」と募金を手渡されました。
- ◆同席されたJA佐賀中央会の家永武士常務理事からは『JAは、3つの共生ということで、「①地域との共生 ②アジアとの共生 ③次世代との共生」をテーマで事業をすすめています。』とのお話があり、その意味からもユニセフに託された意義は大きいと思いました。

募金贈呈式

3月15日(火) 佐賀県支部事務局にて

- ◆赤松小学校6年生の3人の皆さんは総合学習でスマトラ沖地震・津波で被災した子どもたちのことを調べて自分にできることを考え行動に移されました。
- ◆3人はめいめいに募金箱やチラシを作ったり、デパートや商店街の店舗に募金箱をおいてもらうようお願いに行ったりして、それぞれの地域で頑張ってくださいました。卒業を前に募金を事務局まで持って来てくださいました。
- ◆ユニセフの事務所で募金を贈呈しているところを写真に撮り、その写真を添えて協力いただいたお店にお礼に行かれるそうです。
- ◆「困っている人たちのために、お店の人やお客さんたちに協力してもらったのが嬉しい。」と、学習後の感想でした。



募金贈呈式

3月9日(水) 大和町立春日児童センターにて



- ◆春日児童センターでは、2月19日に「こどもまつり」が催されました。
- ◆フリーマーケットのコーナーでは子どもたちが頑張って、物品の販売を行いました。
- ◆今日は、その売り上げをユニセフに託してくださいました。

募金贈呈式

3月9日(水) 多久市立緑が丘小学校にて



- ◆緑が丘小学校ではスマトラ沖地震・津波のニュースをテレビや新聞で見聞き「自分たちに何かできることはないか」と話し合い、集会委員の皆さんが中心になって募金活動に取り組みました。集会委員の皆さんは毎朝玄関で募金箱を持って、登校してくる皆さんに募金協力を呼びかけました。
- ◆自分たちで考え行動を起こしてくれた集会委員の皆さんに、スマトラ沖地震・津波の被災地で行っているユニセフの支援活動についてお話をしました。



募金贈呈式

3月9日(水) 川副町立西川副小学校にて

◆西川副小学校の皆さんは、「スマトラ沖地震・津波で被災した子どもたちに役立ててください」と全校で取り組んだ募金と使用済み切手をユニセフ佐賀県支部に託されました。

◆使用済み切手は縁をきれいに整理してユニセフ協力会社へ送り、換金してユニセフ募金といたします。



- ◆スマトラ沖地震・津波で被災した子どもたちの様子を写真で紹介しながら、投与されているビタミンAについてお話をしました。
- ◆本物の小松菜、ピーマン、かぼちゃ、人参、ブロッコリーなどを用い、私たちが簡単に身近な食物から摂取できるビタミンAが、実は欠乏すると失明にもつながる大切な栄養素であるということ、しかし、世界にはビタミンAを摂取できない子どもたちが大勢いるという話を、全校の皆さんは真剣な表情で聞いてくださいました。
- ◆失明を防ぐためには1人、1年分わずか6円のカプセルを摂取すればいいという説明に子どもたちの口から驚きの声もれました。

募金贈呈式

3月4日(金) 千代田町立千代田東部小学校

◆千代田東部小学校は「次郎物語」の作者下村湖人の出身校で、「白鳥蘆花に入る」の精神のもと、アルミ缶回収でのボランティア活動に取り組んでおられます。

◆児童会の皆さんは今年目標を「世界の病気の子どもたちに薬をおくろう」として、アルミ缶回収募金をしてくださいました。

これにはPTAの皆さんのご協力も大きくて、アルミ缶回収ボックスを作ったり、毎週金曜日の朝に回収作業を手伝ったり、業者さんとの交渉をしたりして尽力されました。

◆募金贈呈式の後、ユニセフの「予防接種プラス」のお話しをしました。



1年間の取り組みの発表



募金贈呈式



熱心に話しを聴く皆さん

募金贈呈式

2月27日(日) 三橋町立矢ヶ部小学校にて

- ◆矢ヶ部小学校の皆さんは、早朝募金・餅つき大会の収益金などをユニセフ募金として贈呈してくださいました。
- ◆事務局では、皆さんへの感謝を込めて、感謝状と絵本をお贈りし、ユニセフの話もしました。
- ◆当日は、校区の「ふれあい広場」ということで、炊き出し・模擬店・ウォークラリーなども行われていて、みんなで子どもたちを大切に育てておられるという雰囲気が伝わってきました。



ナマステ! ケタ ケティ

～ネパールの子どもたち、こんにちは～

2月6日(日) アバンセにて

- ◆ネパール交流会 ～ネパールの味をいただきます～
佐賀大学の留学生、カナルさん、ラージさん、ドゥルガさんにネパールの「豆カレー」と「ポテトサラダ」を教えてくださいました。
大変美味しいカレーで来場された皆様に大好評でした。



- ◆ネパールスタディツアー報告会 ～ネパールの子どもたちこんにちは～

報告者と司会者は留学生のドゥルガさんに手伝ってもらってサリーを着ての報告会をしました。ユニセフの支援が入って村の人々の意識がどのように変容し、人々の暮らしがどのように改善されているか、またどのような課題が残っているかをたくさんのスライドを使って報告しました。ネパールでユニセフが使っている啓発用のポスターや紙芝居、教科書、水がめや鍋などの生活用品も展示し、ネパールの人々の暮らしに想いを馳せていただきました。



スマトラ沖地震・津波 緊急募金

2月6日(日) 第4回西日本ハムフェアにて

第4回西日本ハムフェアでは北は関東、南は沖縄と1,000名以上の参加があり、大変な賑わいとなりました。その中で「スマトラ沖地震・津波緊急募金」の協力をお願いしたところ、たくさんの支援をいただきました。なかには小さな財布から10円、100円と募金してくれる子どもさんもおられました。多くの方が他国の惨事ではないと感じておられるようでした。

(佐賀有明アマチュア無線クラブ代表 串山)



事務所訪問

2月3日(木) 佐賀市立赤松小学校6年生総合学習で事務所に訪問

赤松小学校6年1組の皆さんは総合学習で「スマトラ沖地震・津波」について調べ募金活動をしようと、佐賀県支部の事務所を訪問しました。事務局スタッフを交えて、募金活動の仕方やいくらでどのような支援が出来るか等を調べました。

募金贈呈式

2月1日(火) コープさが本部にて

コープさが生協では、各店舗や共同購入等で組合員の皆様に「スマトラ沖地震・津波緊急募金」を呼びかけられました。その結果多くの皆様方から901, 203円もの募金が寄せられ、梁井理事長からユニセフ協会佐賀県支部に託されました



スマトラ沖地震・津波緊急募金活動実施

1月23日(日)午後2時30分～3時30分 佐賀郡大和町 ジャスコ佐賀大和店にて

佐賀県支部では、被災地域におけるユニセフ活動を支援するために緊急募金活動を行いました。厳しい寒さの中でしたが、12名のボランティアでお客様に募金を呼びかけました。長崎県から募金に駆けつけて来てくださった方がおられ、一同大感激でした。



多くの皆様方からお預かりした募金は、スマトラ沖津波で被災した子どもたちの緊急支援事業に使われます。ユニセフは支援を確実に子どもたちに届けます。

日本生活共同組合連合会九州地連ユニセフ担当者会議

1月20日(木) 福岡市 博多パークホテル

九州地連ユニセフ担当者会議で佐賀県支部の活動の紹介をしました。また、オブザーバーとして参加させていただき、ユニセフの地域組織のないところでもユニセフ支援活動に積極的に取り組まれていることを知り、同じ志を持つものとして心強くまた今後も共に連携できたらとの思いを持ちました。(事務局長)



「佐賀県支部の活動」の紹介 ユニセフがネパールで展開している母子保健の啓発活動の紹介



ユニセフ授業

1月17日(月) 大川市立大川小学校にて 5, 6年生対象

テーマ : 私たちの食料と世界とのつながり

◆授業の流れ

- ◎ 大川小学校5, 6年生の皆さんは給食週間で「食」について学ぼうと標記のテーマで学習をしました。
- ◎ 食料分配ゲームで日本を含む先進工業国は両手に持てないほどの食料を消費していることを疑似体験しました。
- ◎ その後「日本の食料自給率」が40%であり、私たちの食生活は外国の生産に大きく依存しているという現実をいくつかの食料を例に考えてみました。



食料分配ゲーム



学習を振り返っての発表

◆感想

☆「日本はとてもぜいたくなんだと考え直しました。もし、外国からの輸入ができなくなったら日本人は今の40%しか食べられません。今の私には外国で食料が足りなくて栄養不良になっている人がいるなんて信じられません。私は世界の人みんながごはんを毎日食べられるようになる日を楽しみにしています。」(石井)

☆「これからは食料の少ない国の子どもたちのためにユニセフ募金の日には協力しようと思いました。日本も外国にたよらずに自分たちの国で食料がたくさん作れるようになればうれしいです。私は外国で食料を作ってくれている人たちに感謝して残さず食べようと思います。」(田中)



募金贈呈式

1月12日(水) 佐賀県庁知事室にて

古川佐賀県知事より「スマトラ沖地震・津波救援」のための募金が中尾会長に贈呈されました。

「子どもたちのもとへ確実に届けてくれるところ」ということでユニセフ佐賀県支部を通じての募金となりました。